



# 辰巳小だより

江東区立辰巳小学校  
校長 景山 賢治  
学校だより第1号  
令和8年4月7日

(ホームページアドレス) <http://tatsumi-sho.koto.ed.jp>

一人一人が輝く「こどもまんなか」の学校づくりを目指して 校長 景山 賢治



やわらかな春の陽ざしに桜の花びらが舞い、希望に満ちた新年度を迎えました。学年が一つ上がり、少しお兄さん、お姉さんの顔つきになった在校生の皆さん、進級おめでとうございます。こどもたちの元気な挨拶と弾むような足音が校舎に響き渡り、新たな教育活動が始まりました。4月9日の入学式では、目をきらきらと輝かせた1年生を迎える予定です。

さて、今年度本校が最も大切に掲げる、一人一人が輝く「こどもまんなか」の学校づくりについて話をします。学校の主役は言うまでもなくこどもたちです。私たちは、こどもたちの「思いや願い」をしっかりと受け止め、誰もが安心して、自分らしく学べる温かい学校をつくります。こどもたちが「学校が楽しい」「明日もみんなに会いたい」と心から思える学校をつくることで、こどもたちが笑顔になり、それが保護者の皆様の安心や、地域全体の笑顔へとつながっていく。そんな幸せの好循環を皆様と共に作り上げるために、今年度、本校は以下の3つの柱でこどもたちの笑顔と成長を支えてまいります。

## 1 「やらなければいけない」から「やりたい！」へ変わる授業

基礎基本の学力を丁寧に身に付けさせた上で、学ぶことの楽しさを実感できる授業に、学校を挙げて取り組みます。毎時間の授業で目標（めあて）を持ち、まずは自力でじっくりと考え、友だちの多様な意見に触れて考えを深め合い、最後に自分の成長を振り返る。このサイクルを徹底し、「やらなければいけない」学習から、こども自身の意欲に基づいた「やりたい」学習への転換を目指します。一人一人の得意な学び方は異なるため、多様な学び方を認め合い、「自分のやりたい方法で学べる」環境づくりにも挑戦していきます。

## 2 答えのない問いに向き合う「探究」と「体験」

これからの社会では、教科書の内容を覚えるだけでなく、正解のない問題に対して自分なりの答えを見つける力が不可欠です。3年生以上の総合的な学習の時間では、「地域」「環境」「文化」を柱に、辰巳のまちを舞台にした探究学習を行います。同時に、米作りや大豆から豆腐やみそを作る活動等、教室では得られない五感を使った「体験」を重視し、命の尊さや働く喜び、関わってくださる方への感謝の心を育みます。また、花壇や農園を活用して、こどもたちの手で草花や野菜を育て、命を慈しむ環境を整えます。

## 3 笑顔でこどもたちと向き合うための「働き方の見直し」

質の高い教育を実現するためには、教職員の「働き方の見直し」も欠かせません。業務を効率化する最大の目的は、「こどもたち一人一人と丁寧にしかかわる時間とゆとりを生み出す」ためです。教師自身が心身ともに健康で、笑顔と情熱をもってこどもたちと向き合うことが何より重要だと考えております。教職員が日中の教育活動に全力で取り組めるよう、勤務時間外の電話対応等につきましては、保護者の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい学年、新しい教室、新しい友だちに出会い、こどもたちの胸の中は大きな希望でいっぱいです。特に最高学年となる6年生には、学校の顔として自分の「やりたい」学びを見つけ、下級生を引っ張ってくれることを大いに期待しています。私たち教職員は、「こどもまんなか」の理念の下、本校の教育目標である「にこにこ 元気に やりぬく子」の姿を目指し、全校児童が一人残らず輝けるよう持てる力を注いでまいります。元気な挨拶や外遊びを通して健やかな体を育むとともに、互いのよさを認め合い、自他を大切にする豊かな心も育ててまいります。今年度も、本校の教育活動への変わらぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。共に手を取り合い、こどもたちの笑顔あふれる素晴らしい1年にしてまいります。